

19/5/28 名古屋城石垣部会

(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

13:30

堀田整備室長：始める

佐治総合事務所長：名古屋城総合事務所長

令和はじめての石垣部会

服部調査研究センター所長：4月から調査研究センター

17名のセンター 他と比較しても充実している

文化財保護法 発足70年

3条 歴史を正しく理解する 文化を正しく理解する
将来の文化の発展の基礎となる

4条 国民は措置に協力しなければならない

5/14 名古屋大空襲 多くの犠牲者が出た

大小御殿、門も櫓も焼けた

有志で黙祷を行った

戦後は終わっていないのではないか

熊本と名古屋を兼務している

熊本 加藤清正が名古屋城を建築したという古文書が発見した

朝鮮に出兵した お城を築き、籠城戦

援軍がくるまで落城しないように

大地震を経験

伏見城天守倒壊を見ている

名古屋城観察 思いのこもった遺構がたくさんある

総力を挙げて名古屋城を学術的に研究している

堀田：出席者紹介

北垣・赤羽・宮武 洲さき

写真・ビデオの撮影はこれまで

13:36

堀田 資料の確認

報告

蜂矢主幹：現状変更（天守閣解体）の許可申請

4/19文化庁提出

石垣部会+後日「まとめ」を付して提出

現状 文化審議会に諮ったかどうか不明

あわてず朗報を待ちたい

堀田：次に議事に移る

北垣座長 よろしく

北垣：資料 事務局に説明して頂いてからご意見をいただく

令和元年度調査予定

名古屋城村木：資料1

新年度 調査全容

都合7点の調査を予定

まだ具体的でないものも含んでいる 図面は控えている

時期は現地での調査 考古学発掘調査

- ・本丸搦手馬出
- ・二之丸庭園
- ・二之丸地区 愛知県体育館 将来的な整備
現況を把握する トレンチ調査
- ・本丸石垣発掘調査 一昨年度 根石周り 追加調査の必要性
そちらの調査 堀底の調査を行う
できるだけ早く この後詳細に説明する
- ・天守台石垣等調査 いくつかの調査をまとめたもの
今の時点でできていない
穴蔵石垣根石背面調査 昨年度予定していたができていない
小天守入り口、橋台
- ・仮設置範囲内試掘 こちらの部会 解体の石垣への影響
仮設置 下の状況把握できていない
現状変更許可を進めるのはいかがなものか
現天守解体許可 試掘調査
一体として含めている 今年度調査する
- ・場内石垣カルテ 現況を調べる 発掘は含まない

名古屋城 考古学学芸員 4人 1名欠員

囑託1名＋6月1名

村木と主査 8名

調査に当たるのは6名＋α

1人が専任するのは難しいがこの体制でやる予定

北垣：これでよいか

村木：一度これで切って

北垣：7項目 あがっているが

なにかご意見があるか

宮武：仮設置範囲 なにか？

村木：仮設構台

宮武：前回「飲めない」と言った

それを受けてトレンチ調査の案を作ったと聞いた

村木：おっしゃるとおり

宮武：トレンチ調査について初めて聞いた

審議する予定はあるか

村木：仮設構台

御深井丸

宮武：トレンチ調査の結果、「危ない」

地下埋没遺構が守られない？

だれがチェックするのか

オーソライズする方法は

村木：名古屋城内 部会所管しないところは親委員会

何らかの有識者にはかる必要がある

宮武：発掘調査は親委員会で検討する？

村木：具体的ではないが、そういう方法もあり得る

宮武：石垣部会の意見はどこで反映するのか
トレンチ調査 はかってもらえなかった
事実上今日きかされた
どうして調査予定が入っているのか

村木：調査を入れた理由 考古学 誰がどこで何をするか
ここの部会で意見を聞く

宮武：報告をして頂いて、部会で意見を聞くということか

村木：そう

宮武：「これは危ない」
工事場所、盛り土について

村木：試掘が目的ではない

宮武：現状変更をもう一回出し直すのですね
保全できない 試掘調査で結果が出たら、設計上変えて頂きたい
今の現状変更ではだめとなったら

村木：試掘の結果で判断する

赤羽：本丸搦手現地調査 2020年1月
解体の時間がものすごくかかっている 10何年
すでにいろんな課題がある 搦手についても
調査に取りかかるべきではないか
来年に持ち越している理由は

村木：後ほど調査 議題にあげるが、
今年度 来年度積み替えに備えて、調査研究をまとめる
現地調査は年明け後

赤羽：国庫補助事業

現地調査だけでなく、その前の調査は対象にならない

村木：搦手 資料3 後ほどの議題

各種の検討を年間通じてやる

赤羽：搦手は後で質問する

7つの事業計画

すべて考古学学芸員があたることになる

せつかく発足した考古学学芸員 正規4名 嘱託1名の5名

7月の調査ができるのかどうかあやうんでいる

かねてから調査員の数が少ない 主張している

5名でやりきれぬのか

調査センター発足したばかり 城郭とか石垣

関わった経験の少ない学芸員が多い

7つもの事業 ちょっと危惧を感じている

やっていけるのか

村木：確かに調査センター 万全ではない

経験ある職員がいる 指導してやる

協力体制をしいてやっていきたい

主査、副所長も考古学専攻 現地に出て

年度の途中は難しい 現有戦力向上

まだ固まっているわけではない

掘削しなくても代替できることは

赤羽：身の丈にあった調査事業量

調査能力が少ない体制 これだけの調査をこなすのは

名古屋城の調査センター 質的な向上が図れない

調査センター発足したばかり 資質の向上を考えて

現場の事業をできるだけ減らして抑制 当面やらなくてすむものはやらない

学芸員の数に見合った調査体制を

出発した時点ですので

要望

北垣：ありがとう

宮武：天守台石垣等調査

穴蔵石垣調査の目的を明確に説明を

村木：昨年度計画

穴蔵石垣 昭和積み替え、現天守

オリジナルの姿はとどめていないと認識

本来の姿に戻したい

ケーソン 手の入ったところとそうでないところ

現況を把握したい

宮武：当然のこと 太平洋戦争以降変更した部分のデータをとりたい

木造復元案

穴蔵復元案

は一致しているのか

村木：木造と穴蔵 一致

宮武：矛盾はないのか

村木：ないと認識

宮武：工法も

村木：そう

宮武：昔の穴蔵の上に木造をのせる

天守閣部会にもはかるのか

村木：そう

宮武：穴蔵のトレンチ 文化庁にオーソライズしているのか

村木：まだ

図面は控えた

宮武：文化庁がだめという可能性もある

村木：そう

宮武：「石垣部会が承認した」といわれては困る
条件が整っていないのではないか

村木：計画の内容をご審議して頂くために出したものではない

北垣：頭出し

一つ申しますと、7つめ 城内石垣カルテ
現状として、石垣のカルテ どの程度いつているのか
後半であるんですか
それぞれ本丸搦手 できるだけはやく対応した方がよい
担当者の状況 できるだけ身の程に見合った
実施計画を作ってもらいたい
5つめ 天守台石垣等調査
今日はこういった課題 検討したい
穴蔵にトレンチを入れる話 文化庁との関係もある
しっかり調整して頂いて、条件が整ってから
やるかやらないか 整理して頂いて
資料の1はこれでよいか

名古屋城：資料2から説明する

本丸石垣発掘調査について

- ・堀底面
- ・御深井丸

北本丸石垣 U6 1 攪乱 地中レーダー調査で調べる

6カ所

千田委員：西側もレーダー探査をするように、と意見
スライド グレー

御深井丸も調べる

現況面 3次元調査

発掘したものも3次元調査 石垣を文化財として把握できるように

北垣：資料2について

宮武：共通認識

木造天守云々ではなく、天守台石垣の健康度が危ない
北側 どれくらいかわからないが、ゴミ山が埋まっている
赤 事前のトレンチ 堀の外岸 根石が非常に不安定
見学道が危険
試掘調査 西側の堀 途中から急落する
天守台の下を発掘するだけではわからない
レーダーを入れる
大天守北 攪乱だろう 1年半前調査
木村さんから報告 危なっかしいのはどれ

学芸員 木村：如実に出たのはE

資料がつけてないかも
Fのところも多少でている
E F一番たまっている

宮武：1年半前トレンチ E Fでていた

村木：調査 攪乱の範囲まではない

ボーリング調査 堀内 Dのあたり 表土の落ち込み
1メートルを超えるのかいえないが、
中央部は確実に落ち込んでいるだろう
輪郭 トレンチをいれて捕まえるのは難しい
レーダーをやりたい

宮武：表土で水があるとレーダーでない

村木：業者と相談 水を抜いた状態 乾かせばでるだろう

宮武：から堀 あれだけ水が出るのがおかしい

湧水か

木村：EとFは深く調査していない

表面だけ 上のところ 戦争がれき鉄分が沈降
不当水層 水がたまりやすい

下からわいてくるようなことは確認できていない

宮武：効率的に進めるのはよい

2つめの課題 御深井丸 根石周り

等間隔 外岸不安定がわかる

レーダーの範囲

今塗ってあるところより南 Nのところまでのばせないか

大天守内側 A安定度

築城土

宝暦の修理 どうして大天守レベルが変わっている仮説もある

南側 本丸内部

予算もあるが

村木：予算もあり即答できない

事前に千田 宝暦痕跡もレーダーで調べて

調査の目的が広がってしまう

粗めの1メートルピッチでかけたい

宮武：範囲の拡大で考えて頂ける

1メートルピッチなら細かい方だと思う

赤羽：丸1～丸6 堀底面の安定性を確認する どういうことか

天守西側内堀 南から北 貫いて底のところ確認してほしい

活かされている

この調査の

堀が掘られたあと 結構な改変が加えられている

根石を設置 盛り土破壊 把握する必要

堀底面の安定性 どういうことをおっしゃりたいのか

もとの堀の傾斜、後世の改変確認か

村木：安定性 便利に使ってしまった

堀底攪乱 石垣等押さえがないという指摘

堀を掘った 盛り土

江戸時代の面まで掘削 どの程度残っているか確認する

赤羽：御深井丸側石垣の安定性、健全性

通路 来場者が歩いている

根石に近いところの発掘調査 十分注意してもらいたい

健全性についてしっかりしたデータをつかんでもらいたい

宮武：前回

トレンチ 地盤工学 西方先生など

文石協 一緒にディスカッションする機会を

外側の石垣 ほとんど江戸時代は残っていないだろう

濃尾地震か経年変化か

よほど慎重にしないと事故につながる

埋め戻し方法

個別に議論することも

北垣：資料2

当面する問題 北側ゴミ穴の範囲

しっかり探し出して頂くためのレーダー どう活かして使うか

レーダーの使い方 この場で範囲、深さ うまく一定の成果がでると

これから先の名古屋城全体の石垣安定性 貢献できるかもしれない

堀底改変問題

御深井丸側石垣変状 崩れたのが残っている

人が通る安全性 しっかり何らかの方法で確認していくことが求められる

調査をよろしく

村木：追加資料 3 Gと重なるように

北にずらしたものでやろうとしている

北垣：資料

村木：北にずらした

宮武：3の意味がわからない

村木：南北方向でやりたかった

Gの真ん中

宮武：没ならわかるが、北に動かす意味は？

村木：精査する

北垣：今のところも含めて慎重にお願い

14：31

北垣：搦手馬出しについて

名古屋城：搦手 解体は一段落

栗石、隅石

来年度から積み直し

動態観測もする

大まかなスケジュール

資料3-1 資料3-2

資料3-3 フローチャートの通り

保護シートを撤去する

補修

背面

北垣：資料3 7ページ 概要について

赤羽：資料1の中 2020年1月から

資料3-4 5月からずっとやらないといけないことが山積

通年調査しないといけない

この図を作りながら、資料1は1月から？

推測すると、トレンチ調査は1-3月から

とんでもないこと 5月からの様々な調査

石垣復元勾配設計、劣化度調査、補修しないと進めない

5月-12月 業務は誰がやるのか

名古屋城の担当者 学芸員担当者ではなく違う人か

村木：表1は現地調査

現実的なこと 分析

現地調査はそこにかかるのは1日かかる

表に書いてある5-12月 考古学担当、

総合事務所 技師がいる 外部に委託する
すべて考古の学芸員がするわけではない

赤羽：奇異に思える

5-1 2月も学芸員が関与しなければならない
経験が少ない人も働いている
現場 石垣準備作業 関わっていかないといけないのでは
なんか外注に出す これこそ名古屋城の学芸員の主体性
石垣調査主体性に関わっていく
5月からの調査 学芸員が関与すべき
5人でできるのか
人数不足は目に見えている
5-1 2月 学芸員が絡むべきだと思う

村木：説明が悪かったかもしれない

学芸員 1人学芸員 1-3月と5-1 2月が時間が同じではない
こういったことも学芸員がすべき

宮武：肥前名護屋城 設計図も学芸員が書いていた

あがっている事業内容 そんなに大変なのか
いままで平常業務で終わっててもおかしくない
敷金成分分析1年かけるのか
トレンチ調査
調査よりはやめに設計しちゃう
背面構造設計を先にする
フローチャート作りませんか？絵に描いた餅
先に調査しないと設計できない
設計した後、トレンチ調査の結果をふまえてかえるのか
それぞれの業務 通常何色 外部発注何色
どうしようにして矛盾がでるか
学芸員が経験を踏まないと 赤羽先生おっしゃるとおり
もう一回やり直し
敷金1年かからない

村木：流れは整理する

赤羽：これだけのことをやっていないことが問題

まだまだやられていない

学芸員が絡んでいない

時間の問題と言うより中身の問題

やるべきものがやられていない

搦手の調査と事業が遅れている

洲さき：付け加え

トレンチ調査工程 文化庁現状変更許可

1 2月 年末 時間のかかる事業 2ヶ月くらい見ておいた方がよいのでは

精査されていくと前後すると思う

宮武：自治体の仕事のボリューム わかってきた

準備工 幅を広げる発注

年度内か年度またぐのか

名古屋城：今年度でやる

宮武：ばらばらに発注するのは無駄遣いではないか

つっこまれる

不自然な工事を発注するのか

北垣：資料3 7ページ 主な工事内容

学芸員、5月までになんとか

本来の業務調査 フローチャート 是非とも作らないといけない

盛りだくさんのよう 業務スケジュール

まんべんなく入っている 整理できるはず

仕事ができない

大至急中に学芸員をできるだけ入れて もう一度検討して

やっとなかないとできない

資料3 言いたいことはまだまだあるが、これくらいにしておく

また次回

できるところから

14:51

北垣：カルテ ご説明を

木村：12ページ 概要

目的、対象、計画は前回もお話しさせて頂いた

調査項目 現地調査 出入り口 桁形虎口

石垣カルテ項目 基本情報自体がない

計画のところ オルソ画像 写真撮影

集中的にやれる部分をやる

基本的な調査をした後、健全性調査

カルテには結果のみ掲載

現状のところ どんな状態か

最終的な危険度は総合的に判断

危険度 調査項目一番下 崩落、利用上、複合した危険度

状況についてはオルソ写真 17ページ 写真に書き込む

特に異常 写真をつける

19ページ カルテ基本的構成

14, 15ページ、16ページ 資料説明

基礎的な情報 オルソ写真 記載

今後の進め方 36. 37 内容で検討している

他城を参考にした

最終的には現状把握

これで終わるのではなく、目的としては保存のための考え方をまとめる

北垣：ありがとう

意見があれば

宮武：事業計画がわかりにくい

もともと石垣カルテ 3年前 石垣部会 業者発注も見越した検討事案

フォーマット これではよいか詰めていた

成果として出てきた

その直後に天守問題

天守台だけフォーマットの完成、議論には乗らずに進めた

12ページ H29. 30

桁形 委託調査員と学芸員によってやっちゃった

石垣カルテ

3年前に止まったままの石垣カルテやりますか？

村木：H29年におはかりをしたと理解

H29.30 現実的に調査したい

昨年11月 その時点までの作ってしまったものがある

一度部会の先生にお示しして、いいのかどうか出した

その時点のご指摘で、作るのに立ち会っている学芸員 どう感じているか

今回もう一度ふまえてご報告した

カルテは現在進行中

今日おはかりして直すべきところは直す

宮武：天守台石垣カルテはどのような位置づけか

村木：仕様が違う 2本立て

カルテ運用は2つを統合して

宮武：何で2本立て

金が違う、作った人が違う

何のための石垣カルテの議論をしてきたのか

あまりにも異常

「先に作っちゃいました」といった

村木：仕様は固まった

部会にお諮りした

宮武：後追いでしょうか？

まじめに議論して、名古屋城にあわせて

1回自分で作ったフォーマット 矛盾がわかる

どうして成果品になっちゃうのか

どこまでさかのぼってしないといけないのか

実験的に作ったものは何で、

天守台 石垣部会の議論とは別

どうやって2つをつなげるのか

村木：名古屋城全体のカルテ これを進めていきたい

天守台 精査させて頂きたい

宮武：中身とは違う

行政体としての脈絡がない

北垣：再整理することか

宮武：つくっちゃったものは活かすことか

村木：運用の中で見直す

北垣：2本立てはおかしい

本来は1本

何をしてよいのかわからない

これはさっきの5月いっぱいまでに石垣を直すフローチャート作った方がいい

項目だけがばらばら 何がどうい話なのか

今あるものの中で、なんでもフローチャート わかりやすくなる

組み替えてはなし

本来は1本

天守台 こういう特徴が出てくる

かえる必要はない

村木：調査項目は共通

全体を統一して把握することは可能

関係を整理する

15：07

北垣：資料5

名古屋城：宝暦大修理

37ページ 資料5

3つの内容 遣方図

41ページ 宝暦大修理

45ページ 工事過程

遣方図概要

石垣秘伝之書 1間ごと

15：25

北垣：ご意見を

質問と言うより、宝暦

現在の石垣 慶長が基礎 今回の調査によって確認できている

宝暦の段階 大々的に積み直しをしている

原典を要約されたようだが、聞いているところはわからない

図面は3枚しかない

名古屋城段階の記録 詳細な記録がある

慶長段階 清正関与しただろう 加藤清正刻印 本質的な価値

その後どのように慶長から宝暦にかけて上に建物 木造があった

建物がある段階で変形してくる 下の石垣が支えきれなくなった

いろいろな当時の判断 積み直し 部分的に積み直しやむを得ず

建物は建ったまま、石垣を積み直した

高さが石材 2尺 今も残っている

文化財のところでやっている

図面で細かいところの説明が必要 時間がない

聞く側はわかりにくい

宝暦年間 作事奉行 石垣 どうも手によってさわられたのではないか

石垣がどう関係するか この記録しかない

本質的な価値は名古屋城の縄張り、石垣にある

なんかの形で明確にださないと

天守台のあり方 そのあたりが必要

遅きに失する

この石垣部会ができた当初に出してもらえると、マスコミの皆さんにも

説明できた材料

これをもとにしつつ、石垣の特徴 宝暦、慶長の特徴

濃尾地震を通じて課題

次はもう少しわかりやすく図面を使って頂く

具体的

搦手馬出 その問題の勾配決める 材料に有力な内容

最初の大事な話

宮武：今の作業 江戸時代の作業 失敗していることをせきららに出す

素人が書いている？

そり板 一段ずつ そんなこと普通はしない

健全かどうか

清正石垣がいったんだめになった

宝暦修復 そのとき慶長の遣り方がわからなくなっていた
経年変化 江戸時代手術失敗した
おかしくなっても守っていかないといけない
大天守 経年変化なのか、修復の対象にしてはいけないのではないかと混在
石工とのディスカッション
積み直す人からすればあり得ないことも

北垣：文献紹介 文化財 修復工事 原則に従っていかないといけない
名古屋では新しい資料が出てきた
調査して、石垣に理解していかないといけないのか

宮武：発掘調査とディスカッションする機会を
修理 堀底ならした とんでもないこと
レーダー探査 この記録 宝暦の段階でならした可能性
文献サイド 現場発掘・レーダー探査をつきあわせて

服部：この資料 何ページ？

15 : 38

北垣：こういうことが書いてある
予定としては3時半
一応、時間が過ぎている
事務局からどうしましょう

村木：議事のまとめ

服部：天守台資料 今要求された
石垣搦め手 勾配を決めないと
独自に研究は研究

村木：調査予定 こちらについて穴蔵調査 仮設構台 報告を
身の程にあった調査を
レーダー探査 広げる こちらについて現状変更許可申請を出していきたい
搦手馬出 現実的にできる調査を
カルテ 天守台カルテ それ以外 2本あるのはどうか
どう整合させるか

宝暦の大修理 資料検討が遅きに失した 今後進めていきたい
文献と考古 一体でというご意見 トータルで進めたい
簡単にまとめた

宮武：石垣 石材の修復フロー
熊本城と名古屋城一致しているか

堀田：ありがとう
次回は追って日程調整